

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	吉美こども園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 元 年 1 2 月 1 1 日

総 評	<p>吉美こども園は昭和27年4月地区立吉美保育園として開設、その後昭和61年吉美福祉会として法人認可を受け、平成28年4月より定員145名の幼保連携型認定こども園として運営しています。</p> <p>「すべての人や物を大切にし、最善の利益を図る」という理念から地域や家庭との関わりを大切に、一人一人の子どもに寄り添った保育を行い、色々な体験を通して心豊かな逞しい子どもを育てるように取り組んでいます。</p> <p>施設長は年2回職員との個人面談を通して、施設の設備環境、経営の改善や業務効率化に繋がるよう意見要望、情報を収集し役員会で検討の上事業計画に組み込み実施するよう取り組んでいます。</p> <p>地域との関わりや高齢者交流も深く、地域の民生・児童委員協議会の文化祭、神社の祭礼に太鼓の演奏を行ったり、月2回の未就園児交流事業「さくらんぼ広場」等の子育て支援相談や高齢者施設の訪問事業などのイベントにも参加しています。また、園児が育てた作物を使った収穫祭を開催し、地域の住民を招待するなど、園児と住民の交流も積極的に行って、こども園としての資源を地域に還元しています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りでの和太鼓の演奏などを行ったり、園児が育てた作物を使った収穫祭では地域の方を招待したりする等、園児と地域住民との交流を積極的に行っています。また、子育て支援事業「さくらんぼひろば」を月2回実施するなど、こども園としての資源を地域に還元するように努めています。 ・年3回行われる幼小中のブロック研究会に参加し、小学校との連携や就学に向けた「年間計画」を立案し、公開保育に小学校教諭に参加してもらい学校と園とがお互いの教育内容や保育内容の共通理解を図り、遊びと学びを繋ぐ「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」を作成しています。 ・年間の食育計画に沿って旬の食材を使った献立の提供、野菜の栽培や収穫したお米で飯盒炊飯、クッキング、菜園活動等、「食べる」ということが楽しく感じられるような工夫がされています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標や課題を、より長期的な視座で計画的に実行できるよう数値や収支目標を含めた中・長期計画を策定されるとより良いでしょう。 ・実習生の手引き等を明文化し、プログラムの内容を明確にしていくことで、より分かりやすく学びの機会を提供できるでしょう。また、継続して行ってきた指導方法などをマニュアル化するとなお良いでしょう。 ・個人情報の扱いに関するマニュアル、保護規程を策定し、随時確認できるよう努めれば良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	吉美こども園
施設種別	幼保連携型認定こども園
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	令和元年12月11日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・理念、保育方針、保育目標をホームページ、重要事項説明書などで明文化し、園内への掲示や保護者会総会などを通じ保護者への周知に努めています。また、職員には職員会議において資料を配布して園全体への浸透を図っていますが、会議後においては会議記録に残されると良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
[自由記述欄]					
<p>・行政資料などを基に自主的に人口動向を収集分析し、入園見込み人数を元に事業計画を作成するなど、先を見据えた経営的視野を持って経営に取り組んでいます。</p> <p>・園長を中心に、役員や管理職と課題を共有し、具体的な対策を立て行動に移すことで改善に結び付けるなど、改善に向けて積極的に取り組む姿が見られます。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	c
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	c
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	a
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・単年度の事業計画は策定されていますが、3～5年を見据えた中・長期計画は策定されていません。把握している具体的な目標や課題を、より長期的な視点で計画的に実行できるよう数値や収支目標を含めた中・長期計画を策定されるとより良いでしょう。</p> <p>・単年度の事業計画においては、職員からの提案や改善点を収集、役員での情報共有など組織的、計画的に策定されるよう努めています。また、保護者会総会での報告などを通じて保護者への周知にも取り組んでいます。保護者への情報提供など実施した内容を記録として残すなど記録の管理に取り組まれるとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a
[自由記述欄]					
<p>・保育の計画を、管理職をはじめ各職員が役割に応じて確認し、反省を活かして次につながるよう立案・実行しています。また、毎日夕礼を行い、その日に起こったこと、翌日に引き継ぐことを共有し現場で即応できるよう備えています。</p> <p>・取り組むべき課題や情報の洗い出し、共有化を職員会議や毎日の夕礼で行っていますが、改善後の評価や取り組みの反省が記録として残されていません。今後は、PDCAサイクルに則ると共に、実施した内容を記録に残すことで情報の長期的な共有化を図り、継続的な取り組みに繋げていくとより良いでしょう。</p>					

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

・施設長は、遵守すべき法令等について把握し、周知、実施に取り組んでいます。今後は、職員が常に振り返りや確認ができるよう工夫されるとより良いでしょう。

・施設や設備などの環境改善や業務効率化に繋がるような提案を現場の職員から収集し、役員会で検討の上事業計画に組み込み実施するなど、組織的・計画的に業務改善に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	b	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	b

[自由記述欄]

・長期間にわたり吉美こども園に勤務する職員が多数おり、職員間の人間関係の良さを感じます。人材の確保のために複数の養成校を訪問したり、業務省力化のためにPCを導入するなど経営や業務課題の改善に取り組んでいます。

・ワークライフバランスを考えた配慮を職員一人一人と相談して行っていますが、そういった内容を明文化し組織的な仕組みに繋がればより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	b
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	b
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	b
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	c	b

[自由記述欄]

・年2回の職員面接を行い、業務や保育に関する姿勢や目標の反省・改善、希望・要望の聞き取りを行っています。職員が目指したい将来像や、園として期待する事柄を面接内容に加えることで更に具体的な人材育成に繋がるでしょう。

・キャリアパスや研修計画を策定し、人材育成に努めています。職員一人一人の研修計画を立案し、それに基づき具体的な目標に向かえる環境を準備できればより良いでしょう。

・依頼を受け実習生の受け入れを行っています。実習のスケジュールや手引きなどを明文化し、プログラムの内容を明確にしておくことで実習生により分かりやすく学びの機会を提供できるでしょう。また、継続して行ってきた指導方法などをマニュアル化することで、担当職員の質をより高く標準化することが期待できるでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
[自由記述欄]					
<p>・園のホームページやリンク先にて適切な情報を公開しています。また、保育に関する情報などを保護者会や連合自治会、子育て支援事業である「さくらんぼ広場」を通じて配布しています。</p> <p>・法人自体が自治会連合と民生・児童委員協議会により設立され、役員には民生・児童委員をはじめ地域の様々な職種の方が属しています。都度行われる役員会で経営や理念に関する協議を行い、事業計画や収支に関する情報などをホームページにて公表するなど運営の透明性に努めています。将来的に外部の専門家によるチェックを受けるなど第三者の視点を取り入れていけるとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	b
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・地域内の高齢者施設訪問事業への参加、地域のお祭りの和太鼓の演奏などを行ったり、園児が育てた作物を使った収穫祭では地域の方を招待したりするなど園児と地域住民との交流を積極的に行っています。また、子育て支援事業「さくらんぼ広場」を月2回実施するなど子ども園としての資源を地域に還元するよう努めています。</p> <p>・希望や依頼がある際は積極的にボランティアの受け入れを行っており、開始前に園の方針や保育目標などの説明を行っています。口頭での説明だけでなく、注意点等を明文化したマニュアルやプログラムを準備しておく、互いにより充実した時間を過ごせるでしょう。</p> <p>・療育を必要とする子どもに対しては、定期的に関係機関と連携・連絡を取っています。今後は、児童相談所や保健センター等の関係機関をリスト化し、職員に周知するとなお良いでしょう。</p> <p>・月1回実施する地域の公民館事業と、民生・児童委員協議会の「きみっこ広場」に職員を派遣したり、子育て支援事業「さくらんぼ広場」で園児と未就園児が交流しています。また、災害時の広域避難場所指定されており、災害時に園を開放するなどの活動を積極的に行っています。</p>					

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	b
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	b

[自由記述欄]

- ・毎年、園独自の「教育・保育・経営案」として保育理念や保育目標、対応マニュアルをまとめた冊子を職員に配布し、職員の意識や対応の統一を図っています。今後は、法人としての幹となるべき「倫理要綱」を策定し、明文化するとよいでしょう。
- ・個人情報の扱いに関しては重要事項説明書に記載し、保護者に同意書を取るなどその使用方法を明確に打ち出しています。現在行っている管理、使用方法のマニュアル、保護規程を策定し随時確認できるよう努めればより良いでしょう。
- ・入園の際には、入園説明会や個別対応で園の方針や保育内容など園の説明を行い、保育内容や運営に関する変更などがあれば保護者総会で在園児の保護者にも説明を行っています。今後は、欠席者へも積極的に届けるよう、内容に関しての掲示等を行うとともに記録として残すとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	b
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	b

[自由記述欄]

- ・苦情解決の仕組みは整備され、第三者委員などの連絡先も含め園内に掲示されています。相談窓口の連絡先をよりわかりやすく掲示するなど保護者の意見が出しやすい環境を整備できれば良いでしょう。
- ・意見や苦情に対してのマニュアルを作成し、受付から処理、改善後の見直しまでの一連の流れを職員間で把握し、組織的に取り組むよう努めるとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	b
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	b
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	b
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	b

[自由記述欄]

- ・事故発生時や不審者侵入時などの緊急時に対応できるよう各種の対応マニュアルを職員へ配布し、毎年更新しています。対応の詳細や緊急時の組織図等を明文化したマニュアルを作成し、組織的な対策、体制の整備を進められるとより良いでしょう。また、日常のヒヤリハットも、収集だけでなく対応・改善の記録を残し、チェックと改善のサイクルをマニュアル化し、情報を共有できる仕組みを整えればより安全な環境が準備できるでしょう。
- ・不審者侵入対策に関して、警察の講習を受けたり、各保育室に「さすまた」を常備するなど対策に努めています。対応マニュアルの策定に加え、指揮系統や対応の意図などの詳細を明文化したマニュアルを定期的に見直し、職員研修も継続的に行われると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	b
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a
[自由記述欄]					
<p>・複数担任で子どもを見守ることで、保育の手法を実地で伝えるOJT環境が整えられています。積み重ねてきた経験を文書化し、保育についての標準的な実施方法について全ての保育者が分かるように工夫されると良いでしょう。</p> <p>・入園前の個別面談を通して個別のニーズ把握に努めています。長年培った経験を元に連携内容や聞き取りの手順などを明文化し、マニュアルとして職員の教育等に活用されればより良いでしょう。</p> <p>・指導計画は年間、月間、週日案と理念に沿った内容で細やかに策定し、それらの評価・見直しも管理者、主幹保育教諭など複数の立場・視点から行われています。アドバイス等の書き込みもあり適宜状況に応じた保育内容への見直しが行われるよう努めています。</p>					

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	b
		48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

- ・全体的な計画は、職員全員で編成しています。
- ・子どもたちが心地よく過ごすと共に遊びが主体的に行えるようコーナーの設置を工夫しています。今後は、室温・採光・音などの環境も心地よく感じられるよう工夫されると良いでしょう。
- ・保育方針にも明記されている通り、子ども一人一人の欲求を受け止め子どもの気持ちに寄り添った保育を心がけ、子どもの生育、家庭環境等職員間で共有し一人一人の子どもの状況に応じた対応をしています。
- ・「月案」や「個別指導計画」を作成し、子ども一人一人に合わせた言葉掛けや発達過程に応じ、自分でやろうとする気持ちを育めるよう援助しています。
- ・年齢に応じたコーナー遊びを整備し、自発性を発揮出来るよう援助しています。戸外遊びや体育遊具、大型遊具などを使用し、月1回体操教室を実施しています。また、園庭で花や野菜の栽培をし、観察収穫をしたり、周りの豊かな自然と多く関わられるよう取り組んでいます。

	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

- ・0歳児保育では人との愛着関係を大切に優しく語り掛け、一人一人の子どもの発達や状態に応じて、応答的な関わりを大切にしています。一人一人の離乳食の進め方や、食材のチェック表を作成し、今までの食した物を記入し月末に持ち帰り、家庭と給食室と連携し無理のないようゆっくり進めています。
- ・子どもが自発的に活動できること、基本的な生活習慣が身につくことを目指して、子どもの気持ちを尊重し、状況に応じて保育士が適切なかわりをもっています。0、1、2歳児の子どもの成長を「連絡ノート」を活用し、家庭との連携も大切にしています。
- ・3歳以上児は園外に積極的に出るようにし、周りの身近な自然と触れ合うよう心掛け、保育室は散歩で拾った自然物でオブジェを作ったり、ごっこ遊びをしたり、子どもたちの作った作品が掲示され、視覚的にも体感的にも心地よい保育室になっています。
- ・支援の必要な子どもには一人一人の状態を把握し、個別指導計画を立案し、安定した生活が送れるよう心掛けています。園生活の様子を伝え、保護者との共有に努め、自己を十分発揮できるようクールダウンのコーナーや遊びの動線を考えられると良いでしょう。
- ・朝夕は合同保育を行い、乳児と幼児が分かれて保育するよう配慮しています。年齢の異なる子どもと一緒に過ごすため、各年齢に見合った玩具や教材の充実を図ることや、保育の連続性に伴う職員の連携を密にするなど、ゆったり過ごすことのできる環境を整え、指導計画にも明記すると良いでしょう。
- ・年3回行われる幼小中のブロック研究会に参加し、小学校との連携や就学に向けた「年間計画」を立案し、公開保育に小学校教諭に参加してもらい学校と園とがお互いの教育内容や保育内容の共通理解を図り、遊びと学びをつなぐ「アプロ-チカリキュラム」「スタートカリキュラム」を作成しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄] 保護者に

・健康管理マニュアルに基づき、一人一人の子どもの健康状態・情報を職員間で共有し、園内のノートで周知しています。乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として電子機器のモニターを導入し、0歳児は5分毎、1歳児は10分以内に観察、記録を行っています。

・個人の健康カードを元に年2回の内科健診、年1回の歯科健診を実施し結果を保護者に知らせています。

・アレルギー疾患、慢性疾患のある子どもに対し、年度初めにアレルギー連絡表を配布し、医師の指示書により対応しています。対象児には除去食、代替食を個別の印のついた食器、トレイで提供し保護者には毎回提供予定の除去食メニューを配布し確認してもらっています。職員は誤食のないよう共通理解をしています。

・年間の食育計画に沿って旬の食材を使い、季節感のある献立を提供したり、行事食を取り入れています。また、野菜の栽培や収穫したお米で飯盒炊飯をしたり、切り干し大根を作る等クッキングや菜園活動等様々な体験活動を通して食を身近に感じ「食べる」ということが楽しく感じられるような工夫がされています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応および虐待の予防に努めている。	b	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

・保育参観を通して保護者と子どもの成長を共有したり、クラス懇談や個人懇談で保護者の意見、悩みなどを話し合う機会を設け、アンケートなどでも要望や意見も収集しています。

・送迎時に日々の様子を伝えながら保護者との対話を大切にし、コミュニケーションをとっています。0、1、2歳児は「連絡ノート」を通して家庭と連絡を取り子どもの様子について保護者と情報を共有し、相談にも応じています。

・虐待の早期発見、早期対応のために職員室に関係機関の連絡先を掲示し、虐待防止に努めています。今後は、虐待に対する職員の対応の標準化、チェックの方法、役割分担を明文化し、現在ある虐待防止対応マニュアルを見直し、職員研修の充実を図られるとより良いでしょう。

・保育士は月案、日案、期毎に自己評価し自らの保育実践と子どもの育ちを振り返り、保育の改善課題を明確にし、保育の質の向上に繋げています。また、園内研修で記録を通して職員個人と園全体の自己評価をし、レベルアップを目指して研鑽を重ねています。